



# 小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ  
〒238-0225  
神奈川県三浦市三崎町小網代  
1385-18  
編集：広報委員会  
編集長：里吉美恵子  
連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziroyc Club

2023年2月号 VOL-296

2023.2.10 発行

## 今月の内容

ページ

連絡事項	(編集委員) .....	1
広報委員長就任ご挨拶	(胡桃 氏家 理央) .....	2
クルージング委員長就任ご挨拶	(CYNTHIA 中井 恭一) .....	3

## 今後のイベント予定

- 小網代フリート総会 : 2月16日(木) 18:30~ (ZoomによるWeb会議)
- KYC 定時総会 : 2月16日(木) 19:00~ (Zoomによるweb会議)
- 2月 KFR : 2月19日(日) Eコース予定 予告信号 10:25
- 総務委員会 : 2月20日(月) 20:00~ (Zoomによるweb会議)

## 連絡事項

1. 小網代ヨットクラブ定時総会・小網代フリート総会が2月16日(木)開催されます  
小網代フリート総会は、18:30~19:00。KYC 定時総会は、19:00~21:00の予定です。
2. 1月15日(日)、KFR577回目(Kコース)とKFR2022年度の表彰式(飲食なし)を行いました  
今年初のレースは17艇が集い、内2艇がコミティ担当とマークボート担当でサポートに入り、レースには15艇が参加しました。レースは短いKコースで行われ最小艇の「香」が初優勝しました。レース後は、未だコロナ明けとはなっていませんが昨年に引き続きクラブハウス2階サロンにて2022年度の表彰式が行われ、前期優勝「SHARK X」、後期優勝「KAMAKURA III」となり、年間総合優勝の銀杯は「SHARK X」に授与されました。毎年恒例の当年度コミティ担当艇のくじ引きによる抽選会が行われたのち解散となりました。集まれた方々からはこれからのKFR勝利に向けた勢いを感じられました。

クラブハウス2階 マスク着用、密にならないように集いました



後期優勝された[KAMAKURA III]メンバーの皆さん



## 広報委員長就任ご挨拶：三浦現地人より

胡桃・氏家理央



今年度から広報委員長を拝命することとなった氏家です。

思い出すのは、今は昔、20代の頃、シーボニアで生まれて初めて乗せてもらったヨットは機走専門、エンジン全開で臭くてうるさく、どこが良いのか全くわからなかった。その記憶のまま暗黒の数十年？が過ぎ、たまたま小網代の船で出航したある快晴の日、風が良いからエンジン止めよう、と誰かが言った時から私のヨットの記憶が始まったと思う。

エンジンが止まる。ふいの静寂。聞こえるのはただ風と波の音。何トンもある巨体が軽々と滑って行く。セールがぱたつくと、ジブシートを挿んで引くなどとてもできない、圧倒的な風の力。それがきちんと制御されると、セールが数学的な曲線を描いてピタリと止まる。船が走り出す。風の力と水の力、決して逆らえない絶対的な二大勢力の間で、両者のバランスを操って走る。こんな知的な乗物があったとは。これがヨットか。

以来、いまだにおよそ知的とはいえない難い乗り手で船には申し訳ないが、自艇・胡桃は今年から技量向上のため、時々クラブレースにも参加させて頂くと思う。乗り手も船もレース向きでないと思っていたのでクルージング専門だったのが、遅ればせながら初心に帰ってもっとヨットを知りたくなった。

私事になるが、コロナ禍でテレワークが浸透したお陰で、私も住み慣れた東京を離れて仕事ができる環境となり、昨年、ついに三浦市の家を本宅として1年が過ぎた。週に1度くらいなら1.5時間かけて東京に通うのも悪くない。もう三浦市民だから、東京に行く時は「上京する」と言う。

ヨットで伊豆から三浦に戻って来ると、低い三浦半島より先に、奥の房総半島が水平線に見えてくるのをご存知の方も多いだろう。住んでわかったが、低いから海風がそのまま素通りして行き、三浦は常に風が強い、風の街だ。



三浦の自宅東側の眺め：対岸は房総半島

おまけに地形が複雑でこの箱庭のような小さな半島を細かく水脈が走り、斜面には流れを縁取る森がある。道を一本外れるとすぐ谷になり水辺があって、ちょっと道を一本遠回りして歩こう…と思うと1時間もか

かったりして、迷路のようだ。あちこちで水が海に注ぐ入江は、奥まって遠浅で森が迫り、水は森を映して緑に光る。三浦半島を南北に走る低い三浦丘陵が、長い年月に細かく浸食されてきた「谷戸（やと）」（リアス式）の地形だ。

その稀有な半島西岸に深く切れ込んだ小網代湾は、西の湾口正面に富士山が見え、3方を森に囲まれてヨットを置くには絶好の自然環境で、この場所に目をつけた先人の慧眼に敬意を表したい。

コンクリートで囲まれた便利なハーバーは沢山あるが、小網代では面倒だの不便だのとぼやきながらも、親子代々ずっと通い続けるメンバーも多い。子供の頃からこんな環境で遊ばせてもらえるなら、何と贅沢だろう。



デッキにてサンセット飲み会

人間の小ささも、自然の偉大さも、ヨットで海に出ると肌感覚でわかる。面倒だし、しんどいし、夏暑く冬寒いが、我々が生きている地球はそういう所だ。そこで軽々と生きられる知恵と力と度胸を磨いておきたい。

コロナ禍でマリネジャー業界全般が縮小したのに、小型船舶一級免許取得者は3割増、パワーボート人口は急増しているという。パワーボートの登録数は現在ヨットの17倍だそうで、ポートショーの主役も今はパワーボートだが…化石燃料がないと走れない船舶より、ヨットの方が楽しいと思うけどな。面倒くさいことが嫌いな若者に、メンドクサイから面白いだけだ。と言っても駄目かな…と、夕日を眺めてデッキでビールを飲みつつ、ヨットクラブ広報の在り方など考えます。今後ともご支援ご鞭撻をよろしくお願い致します。

## クルージング委員長就任ご挨拶

CYNTHIA 中井恭一

今年よりクルージング委員長の役を賜りましたシンシアの中井恭一です。

簡単に自己紹介とクルージング行事へのお誘いをさせていただきます。

KYCにお世話になったのは25歳の時、縁あってシンシア（木造船の旧名“蒼龍”）オーナーの大柴さんと出会い、それを機にオンシーズンは毎週小網代へ足を運び、操船術を習いつつヨットライフを楽しんでいました。

生まれは伊豆の伊東で海には幼い頃より慣れ親しんでいた事もあり、大学時代に潜水士の資格を取りダイビングショップでアルバイト、また夏休みを利用し神津島の漁師民宿でアルバイトをしながら地元漁師の方々と一緒に素替り漁に出たこともあります。今となっては体力的に無理だと思いますが、

この度、クラブメンバーの方々のヨットライフの楽しみ方の一つであるクルージング行事の運営に携わる事になり、メンバーの皆さんとの親睦を深める機会になればと考えています。

気の合った仲間と一緒に語らい、飲み食いし、日常生活からかけ離れた空間でゆったりとした時を楽しむヨットライフって良いですね！

昨今のコロナ禍でここ数年クルージング行事が行われていません。今年は委員メンバーと相談しながら楽しい行事を企画・実施したいと考えています。開催内容については、決まり次第小網代通信にてご案内をさせていただきますので宜しくお願いします。



### <追伸>

シンシアは昨年初夏に新艇（DUF0UR360）に乗り換えました。言うまでもなくクルージング艇です。スターンデッキには BBQ グリルとシンクを備えており、ワイン収納も豊富です。シンシアメンバー乗船時に内覧含め是非遊びに来てください。